



# Chatham House Online Archive

Publications and Archives of the Royal Institute of International Affairs

## 収録コンテンツのご紹介

 **紀伊國屋書店** データベース営業部

〒153-8504 東京都目黒区下目黒3丁目7番10号

電話 03-6910-0518

FAX 03-6420-1359

e-mail: [online@kinokuniya.co.jp](mailto:online@kinokuniya.co.jp)

20170216

# 目次

<b>会合、講演(Meeting/Speeches)</b>	3
--------------------------------	---

## 雑誌(Journals)

International Affairs, 1920-2008	5
Bulletin of International Affairs, 1925-1945	6
The World Today, 1945-2008	7

## 調査・文書(Surveys and Documents)

British Yearbook of International Law, 1920-1967	8
Survey of International Affairs, 1920-1963	9
Documents on International Affairs, 1928-1963	14
Survey of Commonwealth Affairs, 1931-1962	17
Documents and Speeches of Commonwealth Affairs, 1953	19

## 会議シリーズ(Conference Series)

Institute of Pacific Relations Conferences, 1926-1950s	20
British Commonwealth Relations Conferences, 1933-1965	21

## 特別出版物(Special Publications)

Review of the Foreign Press, 1939-1945	22
Refugee Survey, 1939-1945	24

上記の他、Chatham House Online Archive には、1920 年から 2008 年にかけて出版された書籍、報告書、パンフレット、概説資料、討議資料を収録しています。

## 会合、講演(Meeting/Speeches)

収録期間：1920年-現在

### 内容：

王立国際問題研究所（チャタムハウス）は設立当初より、開催プログラムのメイン・パートとして、主要分野の専門家を招き、招待者やチャタムハウス会員に向けて、重要なトピックを語る場を設けてきました。それらは、全会員が出席できる総会（General Meeting）から、少数の招待者のために開かれる非公開の会合や勉強会まで多岐にわたります。多くの場合、話の内容は、保存を目的として記録されました。最初期は速記者によって記録され（速記録の中にはThe London School of Steno typing の署名入りのものもあります）、1966年以降はオープンリール式の録音テープに録音されました。本データベースには、テキスト、音声記録の両方が収録されています。センゲージラーニング社では、文字原稿のない録音の文字起こしを請け負った結果、録音後、一度も再生されたことのない多くの録音資料を含め、本データベースでは、（トランスクリプトを通して）録音も含めた収録全資料の検索が可能となりました。

### チャタムハウス・ルール：

The Rule: "When a meeting, or part thereof, is held under the Chatham House Rule, participants are free to use the information received, but neither the identity nor the affiliation of the speaker(s), nor that of any other participant, may be revealed."

ルール：「会議の全体またはその一部がチャタムハウス・ルールで行われる場合、参加者はそこで得た情報を自由に使用することができるが、会議における発言者およびそれ以外の参加者の身元や所属団体をいっさい明かしてはならない。チャタムハウス・ルールは、自由かつ忌憚のない議論を促すために設けられました。出席者は、会議で得た情報を使用することはできても、発言者の名前や、その情報がチャタムハウスで得たものであることを公表することはできません。このルールは1927年6月1日の理事会（Council of the Institute）で初めて採用されましたが、その時、以下のように説明されています。

"In order that speakers may feel free to express their opinions, all meetings of the Institute shall, unless otherwise stated, be strictly private. Members shall be free to use the information received at any meetings of the Institute but it shall be a condition of such use that the speaker's name shall not be quoted nor the fact mentioned that the information was obtained at a meeting of the Institute."

「発言者が自分の意見を自由に述べるように、研究所のすべての会合は、断りのない限り、完全に非公開とする。出席者は研究所で開かれるあらゆる会合で入手した情報を自由に使用することができるが、発言者の名前や、またその情報が王立国際問題研究所で得たものであるということを公にしてはならない。」

この日から1973年にいたるまで、チャタムハウスの全ての会議は、断りがある場合を除き、非公開となり、チャタムハウス・ルールが適用されることになりました。後に一部のトランスクリプトがInternational Affairs誌に掲載された際にも、しばしば記録の一部が削除／修正されました。1973年6月3日の会議で、チャタムハウス・ルールが修正され、総会（General Meeting）は原則”on the record”となりました。非公開の議論は、引き続き（招待の際に断りが無い限り）記録を取らないことが原則となっています。

## 録音資料とトランスクリプト：

録音資料は、1966年から1976年までオープンリール式の録音機、1976年から2006年まではテープレコーダー、2006年以降はCDで記録されました。本データベースに収録されている音源も、録音技師が専用の機材を使って録音したのではなく、手持ちの機材が使われています。そのため音質、マイクの位置、室外の雑音、聴衆からの質問などにより、聞き取りにくい箇所があります（1980年12月に新しい会議場が使われるようになってから、音質は改善されました）。音質の問題は残るものの、全ての録音が残っていることは特筆すべきことです。センゲージラーニング社では、文字原稿のない録音の文字起こしの委託を請け、専門業者が作業を行いました。専門業者でも理解できない箇所、明確に聞き取れない箇所については、[unclear]と記載されています。音声データをよく聞いていただければ、ご利用の皆様が内容を聞き取ることができるかもしれません。

## 雑誌

### International Affairs

収録範囲：1992年-現在

刊行頻度：年6回刊行（2004年は4回、2005年は5回）

#### 内容：

International Affairs 誌は、チャタムハウスが発行する査読済雑誌です。刊行当初の誌名は Journal of the British Institute of International Affairs で、1926年5月に British を Royal に変更、1931年第10巻から ” International Affairs: The Journal of the Royal Institute of International Affairs ” となりました。刊行の主旨は、1921年の全体会議（General Meeting）で決められたとおり、各種会議の議事抄録と配布資料の一部を掲載することで、会議に参加できない会員に研究所の最新の活動を伝えることでした。この使命ゆえに、 ” International Affairs ” は ” source of information and a guide to judgement in international affairs ” （国際問題における情報源であり、判断のためのガイド）の役割を果たしました。1927年1月より会員以外への販売を開始、掲載内容も、外部の記事まで拡大されました。

雑誌の構成は一貫して、まずメインとなるチャタムハウスの記事数点や講演録、次いで書評がテーマ毎に整理されて掲載されます。記事では、世界の全地域を対象に、国際情勢に関係するあらゆるテーマが論じられていますが、英国の世界観や、英国が考える国際関係における最良の方法に焦点をあてているものもあります。特集号が刊行されることもあります。通常、チャタムハウス所属の研究者やスタッフ、学者、政策担当者、政治家が記事を執筆しています。

第二次世界大戦開戦により1939年12月号から一時休刊となりましたが、1940年6月、新刊書や小冊子、他誌掲載論文のレビューを掲載した78ページの ” Review Supplement ” が刊行され、その後1943年9月までは年間3号のペースで刊行が続けられました。1944年1月、カナダ国際問題研究所の支援のもと、カナダのトロント大学出版局より、本格的に刊行が再開されました。

1950年以降は、表紙の見返しに執筆者の略歴が掲載されるようになりました。

#### 編集者：

・ G. M. Gathorne-Hardy	1922-1931
・ Margaret Cleeve, O. B. E.	Jan 1932-Jan 1957
・ Murial Grindrod	Jan 1957-July 1962
・ N. P. Macdonald	Oct 1962-Dec 1970
・ Wendy Hinde	Oct 1971- Apr 1979
・ Robert Jackson	July 1979 -Oct 1980
・ David Stephen	Mar 1981- Oct 1983
・ John Roper	Jan 1984-Oct 1988
・ Lucy Seton-Watson	Dec 1988-Apr 1992
・ Prof. J. E. Spence	July 1992-Mar 1996
・ Caroline Soper	July 1996 to present

## Bulletin of International News

**収録範囲** : 1925-1945 年

**刊行頻度** : 隔週、年 26 号

### **内容** :

Bulletin of International News 誌 (以下 Bulletin) は、国際問題情報サービス (10 James Square (Chatham House)) より、その創設者の John W. Wheeler-Bennett によって刊行されました。1928 年 6 月までは、会員限定の購読誌として、Association of International Understanding (Sentinel House, Southampton Row, London WC1) より刊行されていました。1930 年、国際問題情報サービスはチャタムハウス情報部に吸収されましたが、Bulletin of International News 誌の発行は情報サービス前所長 Hugh Latimer の編集下、継続されました。

創刊当初の構成は、トピック又は記事 2~4 点で始まり、次いで” Notes and News”、” International News”、” League of Nations News”、補遺がつくこともありました。1927 年には年表が追加されるようになり、年表、2~4 本の記事、League of Nations notes、補遺という構成となりました。1939 年 3 月 25 日号から 1942 年 3 月号までは戦争関連の記事 (演説、声明の評論、各種問題、各国情勢の分析、” Outline of Military Operations” と題した 2 週間ごとの戦況分析が追加されました。

創刊当時の年間ページ数は 600 ページでしたが、終刊時には 1,300 ページまで拡大されました。

最終号は 1945 年 6 月 23 日号で、その後、新雑誌” The World Today” に引き継がれました。

### **編集者** :

- John W. Wheeler-Bennett                      1925-1930
- Hugh Latimer                                      1930-1945

## The World Today

**収録範囲**：1945年-現在

**刊行頻度**：月刊（1981年までは年12回刊行、それ以降は、夏季は2ヶ月合併号を刊行）

### **内容**：

The World Today（副題 Chatham House Review）は、Bulletinの後継誌として1945年に創刊されました。Bulletinは記事と年表で構成されていましたが、“The World Today”、“Chronology of International Events and Document”の2誌にわかれしました。

The World Todayは、記事中心となり、国際情勢における主な出来事や問題の背景を説明し、判断するための考え方を提供すること、チャタムハウス会員に限らずより広い読者に届けることを目的としました。

Bulletinに掲載されていた年表、資料、講演は、別の出版物“Chronology of International Events and Documents”として発行されるようになりました。

学術的な性格の濃い International Affairs に対し、The World Todayは、より広く一般的な読者をターゲットとしました。

刊行当初の構成は、“Notes of the Month”ではじまり、5~6本の記事を掲載していましたが、1985年からは論文のページ数を絞り（500-600ページから220-320ページへ）、書評を追加しました。

2013年現在、世界80ヶ国で9,000部発行されています。

### **編集者**：

・ Hugh Latimer	Jan 1946-Dec 1948
・ John Bowle	Jan 1949 -Dec 1950
・ Ralph Poston	Jan 1951-Jan 1952
・ Murial Grindrod	Feb 1952-May 1962
・ Margaret Cornell	June 1962-Aug 1975
・ Liliana Brisby	Sept 1975-Dec 1983
・ Christopher Cviic	Jan 1984-Oct 1995
・ Graham Walker	Nov 1995-Sept 2011
・ Alan Philips	Oct 2011-present

## 調査・文書

### British Yearbook on International Law

**収録範囲**：1920-1939 年、1944-1973 年

**刊行頻度**：年刊

#### 内容：

British Yearbook on International Law (以下 Yearbook) は英国外務省の法律顧問 Sir Cecil Hurst によって創刊されました。Yearbook がチャタムハウスに帰属することは、1922 年 1 月に刊行された International Affairs の創刊号に記載されています。

Yearbook は、第一次世界大戦後の国際法に対するより広い知識を提供し、理解を促すことを目的としています。第一次世界大戦で、国際法の意義が揺らぎ、旧来の前提条件の再考を迫られる中、Yearbook は、国際連盟規約で宣言された、政府間の行動規範としての、そして国際平和と安全保障を達成する手段としての新しい国際法を再構築すべく、議論と再考の場として政府・民間のいずれの組織にも依存しない、独立した議論の場を提供することをめざしました。

“There is room for difference of opinion, but discussion is essential, and the purpose of the Year Book is to provide scope for well-informed and careful contributions to the science of international law, wherein the fruits of research can be applied to the problems of the day” (“Introduction”, BYIL, 1920-21).

「意見の違いがあってもよい。議論こそが重要である。この年鑑の目的は、国際法という学問に対して十分な情報に基づいた注意深い貢献がされるための視座を与えることである。それにより、研究の成果を今日の問題に適応させることが可能となる。」

Yearbook では、米国やヨーロッパの類似出版物には見られない、当時の英国の国際法の考え方も紹介しました。1921 年 7 月に刊行された第 2 号には、Yearbook が既に国際法分野の指導的な学者・教育者、著名人の支持を得ていることが書かれています。

Yearbook の各号は、記事 8~14 本、訃報、メモ又は短い記事（多くの場合、会議録）、決定事項リスト、論説、国際法廷における褒賞、国際法に関する国内法廷の決定事項、多国間の同意事項リスト、前年に英国で結審された国際法関係の訴訟リスト、書評および受入図書リスト、参考文献、索引で構成され、編集者（編集陣）は編集会議で決定されました。

Yearbook は現在でも刊行が続いていますが、チャタムハウスからの刊行は Volume 46 (1972-73 年) で終了し、Volume 1947 (1974 年) からはオックスフォード大学出版局より刊行されています。

#### 編集者：

・ Cyril M. Picciotto	1920
・ Sir Cecil Hurst, Professor A. Pearce Higgins and E. A. Whittuck, Esq.	1921-1923
・ Professors A. Pearce Higgins and J. L. Brierly	1924-1934
・ Professor J. L. Brierly	1935
・ Sir John Fischer Williams and Professor A. D. McNair	1936-1937
・ Sir Cecil Hurst	1938-1939
・ Professor Sir Hersch Lauterpacht	1944-1954
・ Professor C. H. M. Waldock	1955-1959
・ Sir Humphrey Waldock and Professor R. Y. Jennings	1960-1973



## Survey of International Affairs

**収録範囲**：1920-1963 年

**刊行頻度**：刊行当初は年刊

### **内容**：

設立当初より、チャタムハウスは国際情勢における主な出来事を俯瞰する年次刊行物の出版を企画していました。1924年に全6巻構成の” *History of the Peace Conference*”（パリ講和会議史）を出版、その後1924年をカバーする1冊、1920年から1923年までをカバーするもう1冊の年次分析の刊行を決定しました。Survey of International Affairs（以下Survey）は、歴史を発生と同時に記述することを目的としていました。執筆は、かつてロンドン大学キングズ・カレッジの近代ギリシア・ビザンチンの歴史・言語・文学の教授を務め、パリ講和会議に参加した経験を持つProfessor Arnold Toynbeeが担当しました。

第1巻は、テキスト700ページと資料300ページの構成を予定していましたが、ページ数が増えたため、1920年から1923年までをカバーした全526ページの第1巻と、*The World after the Peace Conference, being an Epilogue to the “History of the Peace Conference of Paris” and a Preface to the “Survey of International Affairs, 1920-1923”*（講和会議史のエピローグであると同時に「国際問題調査 1920-1923」の前文ともなる、「講和会議後の世界」）の2冊に分けて1925年に出版されました。1926年には1924年をカバーしたSurveyが刊行されました（1927年に再版）。巻頭で、英国国際問題研究所の名誉所長G. M. Gathorne-Hardyが、本シリーズの目的を、国際問題について書いたり語ったりする人たちが、彼らが分析、講演する際に拠り所とできるような、慎重に精査された事実を提示すること、と述べています。Toynbeeも” Note by the Writer”（著者覚書）の中で、次のように語っています。

“This book is a survey of international affairs, not of the foreign affairs of the British Commonwealth nor, again, of human affairs in general during the four years 1920 to 1923. The object aimed at as far as space and time have allowed, has been a comprehensive survey of relations between states, and this has determined the arrangement. Not states but relations between states have been chosen as the units, except in the few cases (e.g. Belgium and China) in which the status or internal condition of the country was itself an international affair.”

「本書は国際情勢の調査報告であり、イギリス連邦の外交問題や、1920年から1923年にかけての4年間の人事一般に限るものではない。スペースと時間の許す限り、国家間の関係を包括的に把握することを目的とした結果、本書の構成が定められた。ある国（ベルギー、中国など）の地位や内政が国際問題となる場合を除き、本書では国家ではなく国家間の関係をひとつの単位として扱った。」

Toynbeeはまた、和平の締結は地域によって時間差があることから、Surveyで扱おうとするトピックが既に” *History of the Peace Conference*”（パリ講和会議史）で触れられている場合は重複を避け、参照するに留めたとしています。

付録には文書数点が見本として掲載されました。「安全保障と武装解除の問題」「移民」の2つのテーマは、第1巻ではとりあげられていませんが、1924年号で6年分がとりあげられました。同様に、「アメリカ大陸の国際関係」「イスラム世界の諸問題」「国際機関の活動とその社会的経済的活動範囲」の3つのテーマも遅れて1925年号に掲載されました。

最初の2巻の成功により、Sir Daniel Stevensonからその後の出版に対する寄付を得ることができ、Surveyはほぼ毎年刊行されました（35年で33冊）。各号は400-800ページで構成されています。

1925年号には、Toynbeeの助手Valerie Boulter 編纂の付録”Chronology of International Events and Treaties, 1st January 1920 - 31 December 1925”がつき、国ごとの出来事や条約の一覧が掲載されました。1928年号以降は、各号に関連文書集”Documents of International Affairs”が分冊としてつくようになり、Survey本誌で参照されました。

初期の巻は、Veronica Boulterの調査をベースとしてToynbeeが単独執筆していました。1925年以降は、財政分野はBritish Overseas bankのR. J. Stopford、法律はH. Lauterpacht博士、経済はH.V. Hodsonというように、Toynbeeが招いた各分野の専門家が執筆を担当するようになりました。1925年の第2巻（ヨーロッパとアメリカ大陸の出来事）を担当したC. M. Macartney、1938年第2巻（チェコスロバキア）を担当したR.D.G. Laffanのように、1巻全てを1人の執筆者が担当することもありました。

第二次世界大戦中の期間に関しては、1952年から1954年までの間に計11巻が発行されました。Toynbeeの監修下、複数の執筆者が担当し、1939年から1946年にかけての出来事をテーマ毎、地域毎に取り上げました。

1953年に刊行されたInternational Affairs誌上で、ToynbeeはSurveyの執筆に際しての彼のアプローチを述べています。（「The Writing of Contemporary History for Chatham House」, IA, Vol. 29, no. 2, April 1953, pp. 137-140）

戦後の数年間は、第二次世界大戦中に諜報員として働いた法律家Peter Calvocoressi（1947-1948 to 1953）、次いで国際連合の専門家Coral Bell教授（1954）、歴史学のGeoffrey Barraclough教授（1955-1956 to 1959-1960）、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで世界史の講師をしていたDonald Watt教授（1961 to 1963）が執筆を担当しました。Surveyの情報源として非常に重要な位置を占めたのがチャタムハウスからの情報資料、特に切り抜きサービスでした。1924年以降、英国ならびに海外の新聞から選択された切り抜きがテーマ毎、国毎に索引されました。

最終号（1963年）の巻頭でAndrew Shonfieldは、本シリーズの目的を以下のようにふりかえています。

“to supply, fairly close to the events it records, an objective historical narrative written from a non-national viewpoint, which subsequent generations of professional historians would be expected to develop and enlarge”

「出来事から時間を置かずに、非国家的な視点から書かれた客観的な歴史記述を提供することで、次代の歴史家たちはその歴史をさらに掘り下げ、豊かにすることができるだろう。」

“The task of effective synthesis and interpretation of the whole world’s affairs, as national and international centres of power have proliferated and identifiably significant events have multiplied, has become less and less feasible.”

「国家あるいは国家間の権力の中心が多極化し、重要な出来事が目に見えて増えている現在、世界で起きていることを統合し、解釈することはますます難しくなっている。」

1970年代後半までに、速報性の枠組の中で資料を収集、出版することが困難となり、国際関係の性格も創刊時とは大きく変わりました。これらの理由により、チャタムハウスの理事会は、SurveyとDocumentsを、1963年号をもって終刊とすることを決定、1977年に刊行された1963年号で終刊が発表されました。

## 巻一覧：

- ・ 1920-1923
  - 執筆者：A. J. Toynbee
  - トピック：Organs of International Authority and their Proceedings, 1920-1923, Western Europe, Eastern Europe, the Islamic World, Tropical Africa, the Far East and the Pacific
- ・ 1924
  - 執筆者：A. J. Toynbee
  - トピック：World Affairs: Security and Disarmament, the Movement of Population, the Third (communist) International and the Union of Soviet Socialist Republics; Europe, Tropical Africa
- ・ 1925, Vol. 1. The Islamic World since the Peace settlement
  - 執筆者：A. J. Toynbee

- トピック : The Abolition of the Ottoman Caliphate, North-West Africa, the Middle East
- 1925, Vol. 2
  - 執筆者 : C. M. Macartney
  - トピック : World Affairs: Security and Disarmament, Economic and Social Cooperation, 1920-1925; Europe; the Far East; the American Continent
- 1925, Supplement. Chronology of International Events and Treaties, 1st January 1920-31
- December 1925
  - 執筆者 : V. M. Boulter
- 1926
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with R. J. Stopford, H. Lauterpacht, M. S. Birkett
  - トピック : World Affairs: The League of Nations; Europe; the Far East
- 1927
  - 執筆者 : A. J. Toynbee
  - トピック : Security and Disarmament; Europe; China, the American Continent
- 1928
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter
  - トピック : World Affairs: Security and Disarmament, the Constitution and Membership of the League of Nations; South-Eastern Europe; the Islamic World; China
- 1929
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter, C. R. S. Harris, R. J. Stopford, and J. Menken
  - トピック : World Affairs: Security and Disarmament, Economic Affairs; Western Europe; Tropical Africa; the Far East and the Pacific; Relations between Sovereign National States and the Papacy
- 1930
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter, H. V. Hodson, R. J. Stopford, and J. Menken
  - トピック : Disarmament and Security; Europe; the Middle East; China; the American Continent; Economic Affairs
- 1931
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter and H. V. Hodson
  - トピック : the World Crisis; Disarmament and Security; Europe; the Far East and the Pacific
- 1932
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter, H. V. Hodson, R. J. Stopford, and J. Menken
  - トピック : The World Crisis; Reparation and War Debts; Disarmament and Security; North-Eastern Europe; the Far East
- 1933
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter, H. V. Hodson, G. E. Hubbard, A. D. Holt and K. A. Duff.
  - トピック : World Economic Affairs; Disarmament and Security; the American Continent; the Far East
- 1934
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter, H. V. Hodson, G. E. Hubbard, H. A. R. Gibb and K. A. Duff.
  - トピック : World Economic Affairs; the Middle East; Europe; the Far East
- 1935, Vol. 1.
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter, H. V. Hodson, G. E. Hubbard and K. A. Duff.
  - トピック : Europe; the Far East; World Economic Affairs
- 1935, Vol. 2. Abyssinia and Italy
  - 筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter
- 1936
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter, H. V. Hodson, G. E. Hubbard, D. A. Routh, H. Beeley and K. A. Duff.
  - トピック : World Affairs: London Naval Conference, 1935-36, the Development of Rearmament, 1936; World Economic Affairs; Europe; the Mediterranean; the Middle East; the American Continent; the Far East
- 1937, Vol. 1
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter, A. G. B. Fisher, G. E. Hubbard, C. A. Macartney, H. Beeley and K. A. Duff.
  - トピック : World Affairs: the League of Nations and "the Anti-Comitern Triangle" ; World Economic Affairs; the Far East; Europe; the Mediterranean
- 1937, Vol. 2. The International Repercussions of the War in Spain (1936-7)
  - 筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter and K. A. Duff.

- 1938, Vol. 1.
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with V. M. Boulter, A. G. B. Fisher, G. E. Hubbard, D. Mitrany, H. Beeley and K. A. Duff
  - トピック : World Economic Affairs; Europe; the War in Spain and its Repercussions; the Mediterranean; the Far East; the American Continent
- 1938, Vol. 2. The Crisis over Czechoslovakia, January to September 1938
  - 執筆者 : R. G. D. Laffan, revised by V. M. Toynbee and P. E. Baker
  - トピック : Signs of the Coming Storm; the Carlsbad Programme, Crisis of 21 May and the Elections; State of Opinion in Great Britain and France in the Spring and Summer of 1938; Manoeuvring for Position; the Runciman Mission; Nuremberg; Berchtesgaden; Godesberg; Munich
- 1938, Vol. 3. The Crisis over Czechoslovakia, October 1938 to March 1939; North-Eastern Europe; the U. S. S. R. ; the Balkan States in 1938; the Rearmament of Great Britain, France and Germany down to the Munich Agreement on 30 September 1938
  - 執筆者 : R. G. D. Laffan, V. M. Toynbee, F. Aston-Gwatkin, G. Kirk, Viscount Chilston
- 1939-1946, Vol. 1. The World in March 1939
  - 執筆者 : A. J. Toynbee with F. T. Ashton-Gwatkin
  - トピック : The World Powers; Japan and her field of Aggression; Germany and her field of Aggression; Comparative Strength of the Great Powers
- 1939-1946, Vol. 2. The Eve of War, 1939
  - 執筆者 : A. J. Toynbee and V. M. Toynbee
  - トピック : Attempts by Western Powers to organize Resistance; Italy; Germany; the U. S. S. R. ; the Last Ten Days of Peace in Europe; the United States of America; the Far East; Rearmament in Britain and France
- 1939-1946, Vol. 3. The Initial Triumph of the Axis
  - 執筆者 : A. J. Toynbee and V. M. Toynbee, General Sir James Marshall-Cornwall, A. Elkin, A. H. Hicks, H. Higgins, C. Howard, Major P. Lane, A. Cobban, K. Duff, P. Harvey, G. Cox, E. Wiskemann, P. C. Jones
  - トピック : Summary of Operations; the Partition of North-Eastern Europe, Western Europe down to the collapse of France; Great Britain and the Commonwealth; the Subjugation of South Eastern Europe; the Breach between Germany and the Soviet Union; the United States of America and the European War; Japan
- 1939-1946, Vol. 4. Hitler's Europe
  - 執筆者 : C. J. Child, J. Parker, P. Harvey, W. Klat, K. Duff, E. Wiskemann, A. Cobban, Sir D. Morton, Viscount Chilston, S. Lowery, C. J. Child, E. Barker; Editors: A. J. Toynbee, V. M. Toynbee
  - トピック : The Political Structure of Hitler's Europe; The Economic Structure of Hitler's Europe; Italy; France; the Occupied Countries in Western Europe; the Occupied and Satellite Countries in Eastern Europe
- 1939-1946, Vol. 5. America, Britain and Russia, their Cooperation and Conflict 1941-1946
  - 執筆者 : William Hardy McNeill
  - トピック : Co-operation to Fight the War; Co-operation as Peace Loomed; Breakdown of Allied Co-operation
- 1939-1946, Vol. 6. The Middle East in the War
  - 執筆者 : George Kirk with Sir William Fraser-Tytler, H. L. D' A Hopkinson, G. Hunter
  - トピック : Political Movements in the Middle East; to the Victory at Al- 'Alamein, the Recession of the War; the U. S. S. R. and the Middle East
- 1939-1946, Vol. 7. The War and the Neutrals
  - 執筆者 : W. N. Medicott, C. Howard, A. Hicks, K. Duff, C. E. Kirk; Editors: A. J. Toynbee, V. M. Toynbee
  - トピック : Economic Warfare; Latin America during the Second World War; Neutrals and Non-Belligerent Allies
- 1939-1946, Vol. 8. The Far East, 1942-1946
  - 執筆者 : F. C. Jones, H. Borton and B. R. Pearn
  - トピック : The Far East During the War; the Far East after the War
- 1939-1946, Vol. 9. The Realignment of Europe
  - 執筆者 : A. J. Toynbee, R. G. Hawtrey, F. Aston-Gwatkin, S. Lowery, H. Seaton-Watson, E. Wiskemann, W. McNeill, K. Duff, M. Carlyle, Viscount Chilston, Editors: A. J. Toynbee, V. M. Toynbee
  - トピック : First steps towards Economic Rehabilitation; Eastern Europe; Greece; Italy; Western Europe
- 1939-1946, Vol. 10. Four-Power Control in Germany and Austria, 1945-1946
  - 執筆者 : M. Balfour, J. Mair
  - トピック : Four Power Control in Germany; Four Power Control in Austria
- 1939-1946, Vol. 11. The Middle East 1945-1950
  - 執筆者 : George Kirk Topics: Turkey, Persia and the U. S. S. R. ; the Arab Countries and their Western Powers

- 1947-1948
  - 執筆者 : P. Calvocoressi with S. Harden, R. G. Hawtrey, F. C. Jones
  - トピック : The U. S. A. and U. S. S. R. ; Western Europe; the Russian Riposte in Eastern Europe; the Clash over Germany; the Far East; South East Asia; Latin America; the United Nations
- 1949-1950
  - 執筆者 : P. Calvocoressi with S. Harden, R. G. Hawtrey, F. C. Jones
  - トピック : The Rivals; The European Arena; the Asian Arena; International Co-operation 1951
  - 執筆者 : P. Calvocoressi with S. Harden, R. G. Hawtrey, F. C. Jones
  - トピック : North Atlantic Alliance; Western Europe and Germany; the U. S. S. R. and Central and Eastern Europe; Yugoslavia; the Middle East; China and Japan; Far Eastern Wars and Security
- 1952
  - 執筆者 : Peter Calvocoressi with K. Isepp, F. C. Jones, G. Kirk
  - トピック : Western Alliance; Germany and European Defence Community; the U. S. S. R. ; the Middle East and the Arab West; the Far East; South-East Asia
- 1953
  - 執筆者 : Peter Calvocoressi with C. Bell, F. C. Jones, G. Pendle
  - トピック : The Death of Marshall Stalin; Western Dilemmas; the Near and Middle East; the Far East; South-East Asia; Latin America
- 1954
  - 執筆者 : Coral Bell
- 1955-1956
  - 執筆者 : Geoffrey Barraclough, R. F. Wall with F. C. Jones, A. S. B. Olver
  - トピック : Conflicts in Asia; Mediterranean Problems; Europe; The Uncommitted Peoples and the Bandung Conference; the Mediterranean and the Middle East; Developments in Europe and the Atlantic Alliance; Soviet Foreign Policy; Disarmament and the Geneva Conferences; Western Policies and Problems; Soviet Reappraisals; East-West Relations; Tensions in the Middle East
- 1956-1958
  - 執筆者 : Geoffrey Barraclough with R. F. Wall, J. Degras, N. Frankland, M. Gellner, F. Benham, C. Macdoughall, A. S. B. Olver, C. E. Carrington, G. King
  - トピック : Suez and Hungary; Back to Normal: the Middle East, Developments in Europe; the Under-developed Areas; East-West Relations; Under the Impact of the Sputnik
- 1959-1960
  - 執筆者 : Geoffrey Barraclough with J. S. H. Major, G. Warner, R. F. Wall, C. E. Carrington
  - トピック : The Long Road to the Summit; the Western Alliance; the Communist World; Asia and the Far East; the Arab World; the Middle East and North Africa; Africa' s Year; Latin America; the Interregnum
- 1961
  - 執筆者 : D. C. Watt with J. Erickson, S. E. Brittan, R. Gott, J. Major, G. Schöpflin
  - トピック : The Power Blocs, Inter-Bloc and Intra-Bloc Tensions; the "Third World" of the Uncommitted States; Great Power Intrusions into the Third World
- 1962
  - 執筆者 : D. C. Watt with M. Donelan, J. Erickson, R. Gott, J. Major
  - トピック : the Great Powers: Conflict and Failure; the Great Powers and the Third World; the Sub-Systems of the Third World
- 1963
  - 執筆者 : Author: D. C. Watt with J. B. Mayall, R. Smith, G. Warner, J. Major
  - トピック : The Great Powers: East and West in Conflict and Détente; South and South-East Asia and the Great Powers; the Middle East; Africa

## Documents on International Affairs

**収録範囲** : 1928-1963 年

**刊行頻度** : 刊行当初は年刊

### **内容** :

Documents on International Affairs (以下 Documents) は Survey の補遺として刊行され、特定の年に行われた重要な講演、条約、各国首脳や大臣の議会に対する声明、重要な新規法令本文その他を参照する為のクイック・レファレンスの役割も果たしました。

掲載資料はチャタムハウス情報部が収集しました。

国際連盟の” *Treaty Series* ” (条約集) に掲載済の国際条約は含まれません。

第1巻は1928年をカバーしています。外交現場での公用語である英語とフランス語は原文のまま掲載されています。極端に長い文書や、国際情勢の特定の段階に言及していない文書は掲載されていません。

Survey と同様、各巻の構成は地域毎に分かれており、巻頭には総括 (General Section) が、巻末の補遺 (Appendix) にはその年に行われた国家間の合意の一覧が掲載されました。1931年以降は、全ての国に関する全ての重要資料を掲載するのが難しくなったため、掲載内容を特定テーマに絞らざるをえなくなりました。

Documents は、文書の収集・編集の役割を担う Survey シリーズとは別の編集者が担当していましたが、1960年以降は、Survey チームが文書を選定するようになりました。

Survey 同様、国際関係における重要トピックの数や資料の量が1冊の年次刊行物の容量をはるかに超えたため、本シリーズは1963年号をもって終刊となりました。

### **巻一覧** :

- ・ 1928
  - 編集者 : John W. Wheeler-Bennett. Topics: General; Europe; America; Asia; Africa
- ・ 1929
  - 編集者 : John W. Wheeler-Bennett. Topics: General; Europe; America; Asia; Africa
- ・ 1930
  - 編集者 : John W. Wheeler-Bennett. Topics: General; Europe; America; Asia; Africa
- ・ 1931
  - 編集者 : John W. Wheeler-Bennett with Stephen Heard. Topics: Disarmament; Security and Arbitration; Reparations and the Austro-German Customs Union Scheme
- ・ 1932
  - 編集者 : John W. Wheeler-Bennett with Stephen Heard. Topics: Reparation and War Debts; Disarmament; Sino-Japanese Dispute
- ・ 1933
  - 編集者 : John W. Wheeler-Bennett with Stephen Heard. Topics: World Economic Affairs; Disarmament; Europe; America; Far East
- ・ 1934
  - 編集者 : John W. Wheeler-Bennett with Stephen Heard. Topics: General: League of Nations, Disarmament and Security, World Economic Affairs; Europe; America; Asia
- ・ 1935 (2 volumes)
  - 編集者 : John W. Wheeler-Bennett and Stephen Heard. Topics: Europe and Germany; Declarations of Foreign Policy; Negotiations with Germany Regarding the Eastern European Pact and the Franco-Soviet Pact, 1934-35; the Italo-Abyssinian Conflict
- ・ 1936
  - 編集者 : Stephen Heard with John W. Wheeler-Bennett. Topics: Europe; Egypt; America; General

- 1937
  - 編集者：Stephen Heard. Topics: British Commonwealth of Nations; Europe; the Islamic World; United States of America; China, Japan and the Far Eastern War; World Economics
- 1938 (2 volumes)
  - 編集者：Monica Curtis. Topics: Europe; the Far East; America; General; Germany and her Neighbours
- 1939-1940
  - 編集者：Monica Curtis. Topic: Norway and the War, Sept 1939-Dec 1940
- 1939-1946, Vol. 1. March-Sept 1939.
  - 編集者：A. J. Toynbee. Topics: Secret Axis Diplomacy and Planning of Aggression by Germany, 24 Oct 1936 - 17 Dec 1938; Liquidation of Czechoslovakia, 21 Jan-23 Mar 1939; German Threats of Aggression and Western Counter Measures, 18 Oct 1938-11 April 1939; Italy's Annexation of Albania, 12 April - 3 June 1939; Axis Alignments, 29 Sept 1938-1 Sept 1939; German Threats of Aggression and Western Counter Measures, 8 April-18 Aug 1939; the U. S. S. R., Germany and Western Powers, 10 Mar-1 Sept 1939; the Final Development of the Polish Crisis, 22 Aug-3 Sept 1939; the Defence and Neutrality Policy of the United States of America, Jan-July 1939; the Far East, May-Aug 1939
- 1939-1946, Vol. 2. Hitler's Europe.
  - 編集者：Margaret Carlyle. Topics: Germany: Political; Germany: Economic; Germany and Russia; Germany and Japan; Italy; France; Occupied Territories - General; the Occupied Countries in Western Europe; the Occupied and Satellite Countries in Eastern Europe
- 1947-1948
  - 編集者：Margaret Carlyle. Topics: The U. S. A. and the U. S. S. R.; Western Europe; the Russian Riposte in Eastern Europe; Germany; the Far East; South-East Asia; Latin America; the United Nations
- 1949-1950
  - 編集者：Margaret Carlyle. Topics: The Rivals; the European Arena; the Asian Arena; International Co-operation
- 1951
  - 編集者：Denise Foliot. Topics: North Atlantic Alliance; Western Europe and Germany; U. S. S. R., and Central and Eastern Europe; Yugoslavia; the Middle East; China and Japan; Far Eastern Wars and Security
- 1952
  - 編集者：Denise Foliot. Topics: The Western Alliance; Germany and the European Defence Community; the U. S. S. R.; the Middle East and the Arab West; the Far East; South-East Asia;
- 1953
  - 編集者：Denise Foliot. Topics: the Death of Stalin; Western Dilemmas; the Near and Middle East; the Far East; South-East Asia; Latin America
- 1954
  - 編集者：Denise Foliot. Topics: Economic Security; Germany; South-East Asia; the Near and Middle East; Disarmament and Defence; the Far East
- 1955
  - 編集者：Noble Frankland with Patricia Woodcock. Topics: General Issues: Geneva Conferences, Strategy; the Power Struggle in Europe; the Growing Crisis in the Middle East; Independent Asia and the Great Powers
- 1956
  - 編集者：Noble Frankland with Vera King. Topics: The Middle East; Eastern Europe; East-West Relations and Reactions
- 1957
  - 編集者：Noble Frankland with Vera King. Topics: Direct Conflicts in the Cold War; the Arms Race: Disarmament, Disengagement or Discontinuation; the Middle East; the Counter-Alliances
- 1958
  - 編集者：Gillian King. Topics: East-West Exchanges; the Middle East; the Western Alliance; the Communist Powers and Allies; Six Conferences
- 1959
  - 編集者：Gillian King. Topics: East-West Negotiations; Trouble Spots in Asia; the Middle East; Latin America; the Western Powers; the Communist Powers; Africa
- 1960
  - 編集者：Richard Gott, John Major, Geoffrey Warner. Topics: East-West Relations; the Western Alliance and Western Europe; the Sino-Soviet Dispute; the United Nations in Crisis; the Congo; Africa; the Middle East; North Africa; the Far East; Latin America

- 1961
  - 編集者 : D. C. Watt with John Major, Richard Gott, George Schöpflin. Topics: The Power Bloc, Inter-Bloc and Intra-Bloc Tensions; the “Third World” of the “Uncommitted Nations” ; the Major Intrusions
- 1962
  - 編集者 : D. C. Watt with James Mayall, Cornelia Navari. Topics: The Great Powers: Conflict and Failure; the Great Powers and the Third World; Sub-Systems of the Third World
- 1963
  - 編集者 : D. C. Watt with James Mayall, Cornelia Navari. Topics: Relations between the Great Powers; the Middle East; the Far East; Africa; the Western Hemisphere



## Survey of British Commonwealth Affairs

**収録範囲** : 1918-1969 年

### **内容** :

The Survey of British Commonwealth Affairs は Survey 同様、国際情勢における主な出来事を俯瞰する役割を想定していましたが、対象はコモンウェルス (Commonwealth) に限定されました。

British Commonwealth という表現は、1884 年に Lord Rosebury が大英帝国を” Commonwealth of Nations” と表現したことに由来します。コモンウェルスの中では 1867 年にカナダが自治権をもつドミニオン (Dominion) の地位を初めて獲得しました。1900 年から 1921 年にかけて、オーストラリア (1900 年)、ニュージーランド (1907 年)、南アフリカ (1910 年)、アイルランド自由国 (1921 年) がこれに続き、これらの国々は国際連盟に加盟しました。コモンウェルスは、1926 年の帝国会議 (Imperial Conference)、1931 年のウェストミンスター憲章、1949 年のロンドン宣言、1965 年の連邦本部 (Commonwealth Secretariat) 設立と事務局長の着任、多くの国が自治権と完全な独立を獲得と、象徴的な出来事とともに、発展を続けていきました。

Survey of British Commonwealth Affairs では 1918 年から 1969 年にかけて起きた主な出来事をとりあげています。国際情勢全般に関わる問題やコモンウェルス諸国内の問題はとりあげられず、イギリス連邦 (British Commonwealth) にとって最も重要と思われるテーマが研究、分析対象として選定されています。Professor Hancock は第 1 巻の序論で、彼の法論を” microcosmic rather than encyclopedic” (百科全書的というよりも、小宇宙的なものである) と表現しています。脚注の詳細な参考情報は特に高く評価されました。

1937 年と 1938 年に執筆された 2 巻構成の” Problems of Economic Policy, 1918-1939” は、第二次世界大戦開戦前に出版されることが期待されましたが、1 巻目を 1940 年に出版、2 巻目は、せめて大戦の和平が結ばれる前に読まれ、レビューされるようにとの願いの下、1942 年に出版されました。続く 2 つの巻は Professor Nicholas Mansergh が執筆しました。1 巻目の The Problems of External Policy, 1931-39 では、Professor Hancock の著作を補完すべくコモンウェルスの外交史を扱いました。ここでは、ドミニオンが英国の外交政策に与えた影響と、1930 年代の外交政策におけるドミニオンの自治権獲得に焦点が当てられました。Professor Mansergh が担当した 2 冊目” Problems of Wartime Co-operation and Post-War Change, 1939-1952” では、第二次世界大戦がコモンウェルスおよび構成各国に与えた影響、特に、大戦中および戦後において構成各国の地位と英国との関係が変わる中、コモンウェルスというシステムが、その目的と努力の一体性をどこまで維持することができたかという点に焦点が当てられました。Professor Mansergh は、本書の執筆のためにコモンウェルス諸国を訪問しました (1953 年時点での構成国は 8 か国でした)。1953 年から 1969 年までを扱った最後の巻は、Professor Bruce Miller が担当し、1978 年に出版されました。1969 年までにコモンウェルスには新たに 21 か国が加わり、この変化、すなわち「1950 年代から 1960 年代にかけての国際システムの中で、コモンウェルス各国に何が起きたか」という疑問を分析することがこの巻の主なテーマでした。Professor Miller はさらに、スエズ危機、インド・パキスタン・中国の関係、東南アジアの発展、ローデシアのアパルトヘイトと一方的独立宣言の問題、英国の外交、財政、通商政策とそのコモンウェルスへの影響など、コモンウェルスが無視することのできないいくつかの国際問題も取り上げました。このシリーズの同時代的で学術的なレビューは、各巻執筆者の研究テーマに対する客観性と詳細な分析、そして本シリーズの重要性を示しています。しかし Survey of International Affairs と同様、1970 年代になると、同時代の歴史をこれだけの規模で書いていくことは現実的ではなくなり、1978 年の Professor Miller 担当の巻をもって、本シリーズは終刊となりました。

巻一覧：

- ・ Vol. 1. Problems of Nationality, 1918-1936
  - 執筆者：W. K. Hancock with R. T. E. Lathan
  - トピック：Perspective view; the End of the War; Saorstát Éireann; India and Race Equality; the Stature of the Dominions, 1922-36; Ireland Unappealed; the Medicine of the Body Politic Vol. 2: Problems of Economic Policy, 1918-1939. Part 1 Author: W. K. Hancock Topics: Perspective View; the End of the War; the Autonomous Nations of the Commonwealth
- ・ Vol. 2: Problems of Economic Policy, 1918-1939. Part 2
  - 執筆者：W. K. Hancock
  - トピック：Evolution of the Settlers' Frontier, Southern Africa; Evolution of the Traders' Frontier, Western Africa
- ・ [Vol. 3] Problems of External Policy, 1931-1939
  - 執筆者：Nicholas Mansergh
  - トピック：From Empire to Commonwealth: the Years of Transition; the External Policies of the Dominions, 1931-39; the Commonwealth and the War
- ・ [Vol. 4] Problems of Wartime Co-operation and Post-War Change, 1939-1952
  - 執筆者：Nicholas Mansergh
  - トピック：The Commonwealth at War; Problems of Post-War Change; Problems of Expansion and Attrition, 1953-1969 Author: J. D. B. Miller Topics: Perspective View; Suez and Asia; Africa; Commonwealth policy in Britain; Diplomatic Changes; Networks of Custom and Convenience

## Documents and Speeches on British Commonwealth Affairs

**収録範囲** : 1931-1962

### **内容** :

The Documents and Speeches of British Commonwealth Affairs は Surveys of British Commonwealth Affairs とあわせて出版されました。Surveys of British Commonwealth Affairs でとりあげたコモンウェルスの諸問題に関連する文書、条約、合意、重要な講演を掲載しています。関連文書の入手を支援することは、コモンウェルス各事務局の高等弁務官、英連邦関連省、英植民地省、関係国の議会図書館から要請されたものでした。

シリーズ全3巻は、Professor Nicholas Mansergh 監修、各巻には170-340点の文書、講演が掲載されています。

### **巻一覧** :

- ・ Documents and Speeches on British Commonwealth Affairs, 1931-1952, Vol. 1.
  - 編集者: Nicholas Mansergh
  - トピック: The Statute of Westminster and its Adoption in South Africa, Australia and New Zealand; the Removal of Inequalities in Status after 1931; Commonwealth Economic Policies, 1932-39; Foreign Policy and Defence, 1931-37; the Abdication of King Edward VIII and the Coronation of King George VI; Indian Constitutional Reforms, 1931-39; Irish Relations with the Commonwealth, 1933-39; Speeches on Foreign Policy and Defence; the Outbreak of War 1939 and 1941; the Principles and Practice of Commonwealth Consultation and Co-operation in War and Peace, together with Proposals for Reform, 1940-8
- ・ Documents and Speeches on British Commonwealth Affairs, 1931-1952, Vol. 2
  - 編集者: Nicholas Mansergh
  - トピック: India: the War, Partition and Independence, 1940-7; Ceylon: from Colonial to Dominion Status, 1931-47; Burma: Self-Government and Secession, 1945-8; the Indian Republic: its Constitution and its Membership of the Commonwealth; Pakistan: the Guiding Principles of the Constitution; Newfoundland: from Government by Commission to Incorporation in the Canadian Confederation; Tensions within the Commonwealth: the Kashmir Dispute, Treatment of Indians in the Union of South Africa, and the Future of the High Commission Territories; Nationality and Citizenship; Financial Policies: Plans for Economic Aid to Underdeveloped Territories in the Pacific and South and South-East Asia, and for Development and Welfare in the Colonial Empire, 1940-52; the Search for International Security, the United Nations, Plans for Regional and Commonwealth Defence, 1944-51; the Changing Commonwealth
- ・ Documents and Speeches on British Commonwealth Affairs, 1952-1962
  - 編集者: Nicholas Mansergh
  - トピック: Constitutional Structure and Membership; External Policies: Foreign Affairs, Defence and Trade; Economic and Social Policies; the Commonwealth: Organization and Policies

## 会議シリーズ

### Institute of Pacific Relations Conferences

収録範囲 : 1925-1958

#### 内容 :

太平洋問題調査会（以下 IPR）は、1925 年にハワイで開かれた民間の会議の場で創設されました。この会議は、地域内で高まりつつある緊張に関心を寄せる企業人、専門家によって提案され、キリスト教青年会（YMCA）によって組織されました。IPR は、太平洋地域の人々の状況と相互関係に焦点を当てた調査を行いました。IPR は、オーストラリア、カナダ、中国、フランス、英国、日本、オランダ、フィリピン、米国、ソビエト連邦各国の国内組織（National Council）で構成され、英国ではチャタムハウスが IPR に参加しました。

IPR の調査の成果は、季刊の” Pacific Affairs” で発表されました。

IPR は太平洋地域の問題に関して個々の国で行われる研究に資金を提供し、異なる国で同じトピックを並行して研究するべく調整も行いました。

また、IPR は、極東問題を議論するために定期的に非公式の会議を開催しました。各国代表がデータを持ち寄り、議論しました。これらのデータと会議録も本データベースに収録されています。IPR が解散するまでに 13 回の会議が開催されました。

1952 年以降、IPR は長期間にわたり米国上院の治安小委員会（US Senate Internal Security Subcommittee）の調査対象となりました。

1960 年に IPR は解散し、Pacific Affairs の刊行は、カナダ・バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学に引き継がれました。

#### 会議一覧 :

- 1st Conference, Honolulu, Hawaii, 1925
- 2nd Conference, Honolulu, Hawaii, 1927
- 3rd Conference, Kyoto, Japan, 1929
- 4th Conference, Hangchow and Shanghai, China, 1931
- 5th Conference, Banff, Alberta, Canada, 1933
- 6th Conference, Yosemite, California, United States, 1936
- 7th Conference, Virginia Beach, Virginia, United States, 1939
- 8th Conference, Mont Tremblant, Quebec, Canada, 1942
- 9th Conference, Hot Springs, Virginia, United States, 1945
- 10th Conference, Stratford-upon-Avon, England, 1947
- 11th Conference, Lucknow, India, 1950
- 12th Conference, Kyoto, Japan, 1954
- 13th Conference, Lahore, Pakistan, 1958

## British Commonwealth Relations Conferences

**収録範囲** : 1933-1965 年

### **内容** :

コモンウェルス関係会議(Commonwealth Relations Conference)というアイデアは、1929 年の IPR の会議で提起されました。1933 年にトロントで第 1 回会議が開かれるまでの間、ドミニオン間で準備のための会合が開かれました。会議の目的は、イギリス連邦諸国間の関係に影響する諸問題を議論する場を設けることでした。自由な討論と議論を促すため、会議は非公式とされました。

第 1 回会議では、外交政策における協力原理、外交政策の協力のために必要とされる組織、連邦裁判所と法制度の統一、外交分野以外での協力の方法と手段の 4 つが議題となり、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、インド、英国の代表が参加しました。

合計 7 回の会議が開催され、これらの会議の会議録は Professor Arnold Toynbee によって編纂されました。1971 年から 72 年にかけても会議開催が提案されましたが、既にイギリス連邦 (British Commonwealth) について単独で議論する会議を開催するメリットはほとんどなくなっていました。

### **会議一覧** :

- 1st Conference, Toronto, Ontario, Canada, 1933.
  - トピック : “The General Relationship between Commonwealth Countries”
- 2nd Conference, Sydney, Australia, 1938.
  - トピック : “The British Commonwealth and the Future”
- 3rd Conference, London, England, 1945.
  - トピック : “The British Commonwealth and World Society”
- 4th Conference, Bigwin Island, Ontario, Canada, 1949.
  - トピック : “The Changing Commonwealth”
- 5th Conference, Lahore, Pakistan, 1954.
  - トピック : “The Multi-racial Commonwealth”
- 6th Conference, Palmerston North, New Zealand, 1959. (un-numbered) Conference, Lagos, Nigeria, 1962.
  - トピック : “The Commonwealth in Africa”
- 7th Conference, New Delhi, India, 1965.
  - トピック : “Commonwealth approaches to major international problems, mainly trade and defence.”

## 特別出版物

### Weekly Review of Foreign Press

収録範囲：1939-1945 年

刊行頻度：週刊

#### 内容：

Weekly Review of the Foreign Press (以下Weekly Review) は、英国政府のForeign Research and Press Service (FRPS) 向けに、チャタムハウスが作成しました。本出版物の目的を、当時の外務大臣Anthony Edenは次のように述べています。“The Foreign Research and Press Service was established at the outbreak of war to provide full research and reference facilities on international questions for the use of all Government Departments, and to follow and review opinions and tendencies in the foreign Press. No other Department has a similar reservoir of published material or of experts specially trained to use it; and no other Department produces a similar Review. The Foreign Research and Press Service has drawn its library, and several of its staff and some financial help from Chatham House. It is also financially assisted by the University of Oxford; and by a grant, amounting in this year's Estimates to £53,000, from public funds.” (*Hansard, HC Deb, 23 July 1941, vol 373, cc861-2*) 「Foreign Research and Press

「Serviceは、開戦に際し、あらゆる政府部局が利用できるような国際問題に関する完全な調査と簡便なレファレンスを提供し、海外報道の見解・傾向を把握・レビューするために作られた。他のいかなる組織にも、これに類するまとまった出版物や、それを扱う専門家集団は存在せず、このようなレビューを作成することはできない。FRPSはチャタムハウスから図書室、スタッフ、財政面の支援を得た。またオックスフォード大学からも財政支援を得ている。さらに本年度予算で公債から53,000ポンドの助成を得る計上をした。」

1939年、FRPSはArnold Toynbeeを長とし、にオックスフォードのベリオール・カレッジ (Balliol College) に設置されました。Toynbeeには第一次大戦中Sir James Headlam-Morleyの下、政府の政治諜報部に在籍しており、後にチャタムハウスの研究部長にもなりました。Toynbeeは百人を超える教授や研究者を雇いました。

1940年3月21日まで、Weekly Review of Foreign Press はタイプ打ちで作成されましたが、以降は Review of the Foreign Press の名で正式に印刷されました。この文書は政府内の様々な部局に提供されました。

1939年10月3日の創刊号で、本出版物の目的が以下のように説明されています。

“The Weekly Review of the Foreign Press is designed to give a more continuous account of events and tendencies, political, social and economic than is possible in the Daily Notes from the Foreign Press which are also being issued by the Royal Institute of International Affairs. It will include (either in full or in summary), certain select documents and texts. Material will be used from other sources (books, pamphlets, foreign broadcasts, personal information) to supplement the information in the press; whenever possible the sources of information will be specified. When necessary, explanatory and interpretative comment will be given by the contributors, but this will in all cases be clearly distinguished from statements of fact and expressions of opinion taken from the foreign press and other foreign sources”.

「The Weekly Review of the Foreign Press は、同じくチャタムハウスから刊行されている Daily Notes from the Foreign Press でもとりあげている政治的、社会的、経済的な出来事や傾向を、より継続的に記録することを目的として作られた。

ここには選定された文書や文章の全文または概要が収録される。当資料の内容を補足するべく、書籍、パンフレット、外信、個人情報など外部の情報源からも資料が使われる。それらの情報源は可能な限り記載する。必要に応じ、寄稿者による説明や解釈を加えるが、これらは海外の報道やその他の情報源から得た事実の報告および意見表明とは明確に区別される。」

FRPS は特定の分野に関して非常に詳細なメモを残しました。

Weekly Reviews は扱われる地域毎に、シリーズで刊行されました。例えば Series A. Germany and German-Occupied Territories (シリーズ A ドイツおよびドイツ占領地域) は主題によって分けられています。Series A, Issue 1 は大きく以下の 3 セクションで構成されています。”Germany and the World” (ドイツと世界)、“Domestic Affairs” (国内)、“Occupied Territories” (占領地域)。これらのサブセクションの中で様々なテーマがとりあげられ、新聞等から然るべき文章が参照・引用されました。後に、掲載されている新聞情報の要点と注釈が各巻の冒頭につくようになりました。他のシリーズ、例えば Series B. European Neutrals and the Near East (シリーズ B ヨーロッパの中立国と近東) は、まず地域によって、次に国によって分けられました。Weekly Reviews には、次のような特定のテーマで補遺がつくこともありました。”Interim Survey of Germany’s Plan for Europe and the War” (26 Aug 1939) (ヨーロッパと戦争に関するドイツの計画の仮調査)、“Vichy options on Spain and Portugal” (27 Nov 1939) (スペインとポルトガルに関するヴィシーの選択)、“Fascist Albania” (16 Dec 1939) (ファシスト・アルバニア)

レビューの内容は、各地域から受け入れる新聞レポートや切り抜きに依存していました。特定の地域からの新聞配送が止まった期間には、その旨が記載されました。いくつかの地域については、特定テーマに関するメモが、数年後により広い報道レビューに置き換えられました。

1945 年 6 月 30 日には、全てのシリーズが刊行終了しました。

### シリーズ一覧：

- Series A. Germany and Territories in German Occupation.  
Issues 1-176. 3 Oct 1939-22 Feb 1943
- Series A. Memoranda on Axis-Controlled Europe.  
Issues 177- 1 Mar 1943-26 June 1945 From issue 177, the review changed to memoranda on special topics or countries plus a “notes of the week” - short general surveys of the news in the German or Italian press and short notes on outstanding events.
- Series B. European Neutrals and the Near East.  
Issues 1-291. 4 Oct 1939-27 June 1945
- Series C.  
The Americas, USSR and the Far East. Issues 1-172. 12 Oct 1939-28 Jan 1943
- Series D. European Allies and Occupied Territories.  
Issues 1-40. 6 Oct 1939-3 July 1940 After July 1940, reviews of the press from enemy-occupied territories and France were continued in Series A and from territories of Allied governments in Series B.
- Series E. Review of the Dominions Press.  
Issues 1-222. 13 Oct 1939-28 Jan 1945
- Series F. France. Issues 1-62. 22 Feb 1943- 25 June 1945
- Series N. The Near and Middle East.  
Issues 1-53. 30 June 1943-25 June 1945 The Near East was previously covered in Series B. This series follows on from Series B, Issue 190, pp. 332-36. Series N appeared fortnightly.
- United States Memoranda.  
Issues 1-236. (Issue 236 is an index ) 29 Feb 1940-1 Jan 1945
- United States Research Memoranda.  
Issues 1-8. (Issue 8 is an index of all United States Memoranda from 1940-1945). 8 Jan 1945-25 June 1945.
- Latin American Memoranda.  
Series 1: Issues 1-147 (issues 96 and 147 are indexes). 29 Feb 1940-31 Dec 1942
- Latin American Memoranda and Economic Notes.  
Series 2: Issues 1-72 (Issues 32, 59 and 72 are indexes). 7 Jan 1943-18 June 1945

## Refugee Survey

**収録範囲 : 1938-1939 年**

### **内容 :**

1937年9月、チャタムハウスの後援の下、Sir John Hope Simpson(1868-1961)が難民問題の調査を委託されました。この調査はロックフェラー財団、Viscount Liverholmeの管財人、Sir Hailey Stewart Trustから資金援助を受けました。物資・政治的な難民支援のために、1930年に国際連盟が設立したナンセン国際難民事務所が1939年に閉鎖されることになり、国際連盟はこれにかわる難民問題の現状に関する報告を必要としていました。

Simpsonはこの任務の適役でした。ギリシア・トルコ戦争(1920-1922)の後、ギリシア人難民の定住のために設立された国際連盟のギリシア難民定住委員会の副委員長を1926年から1930年まで務めました。1930年にはパレスチナにおける難民定住に関する調査特別チームのメンバーに任命されました。彼は報告書の中で、耕作可能な土地が限られており、ユダヤ人の入植を制限すべきことを訴えましたが、この報告の大部分は無視されました。Simpsonは中国の揚子江流域を襲った洪水に対応するために作られた国家洪水復旧委員会(National Flood Relief Commission)の委員長を1931年から1933年まで務め、さらに1934年から1936年まで、ドミニオン担当大臣 J. H. Thomas の下、ニューファウンドランド天然資源担当(Commissioner for Natural Resources in Newfoundland)に任命されました。

チャタムハウスから委託された難民問題の顧問団は、ドイツからの難民担当高等弁務官 Sir Neil Malcom を Major-General として、ナンセン国際難民事務所所長 Judge Michael Hansen、Professor Norman Bentwich、Miss Hilda Martindale、Mr H. D. Henderson から構成され、Maître Rubinstein、Mr Leonard Montefiore を非常勤メンバーとしました。

ロシア難民委員会は Mr L. B. Golden、Dr C. G. Kullmann、Professor B. Maklakoff、Professor P. Miliukov、Maître J. Rubinstein、Dr A. Stoupnitzky で構成されました。ドイツ難民委員会には Professor N. Bentwich、Dr F. Demuth、Lord Ducannon、Mr L. Montefiore、Professor A. Meusel が参加しました。Walter Adams が委員長になりました。

Sir John Simpson は、エビアン会議開催に先立ち、1938年6月28日のチャタムハウスの会議の場で、調査結果の要点を発表しました。エビアン会議は、ナチスドイツを逃れようとするユダヤ人難民の問題を扱うべく F. D. ルーズベルト大統領の呼びかけで、フランスのエビアン=レ=バンで1938年7月6日から15日まで開かれたものです。チャタムハウスでの会議の1か月後、Refugees: Preliminary Report of a Survey と題した仮報告書が、1938年7月27日に発行されました。

1938年10月に正式な報告書 The Refugee Problem: Report of a Survey が刊行されました。これは、その年の9月に開催を予定していた国際連盟総会で決定される将来の国際連盟の対応に関心を寄せる人々に向けて、戦後の動きの起源を簡潔に報告したものです。報告書はまた、エビアンで開催された政府間委員会の出席者にも配られました。正式報告書では、7月の仮報告書で取り上げられなかった1938年6月から10月までの出来事を踏まえ、その結論を見直しました。

報告書の情報源には、販売されている書籍や文書、公的私的機関の文書、さらに多くの国の専門家が Survey のために作成した特別報告が含まれます。ここで取り扱われたのは第一次世界大戦後に発生した難民、つまり政治的社会的(自然災害ではなく)な惨事によって発生した難民の動き、そしてヨーロッパ諸国、オスマン帝国、ロシア帝国の難民問題に限られました。基本的には中国、アビシニア、南米で発生した難民の動きは取り扱いませんでした。



### 執筆者一覧：

- Dr Arsène Stoupnitsky, who travelled in France, Yugoslavia, Bulgaria, Roumania, Czechoslovakia, Poland and the Baltic States and was mainly concerned with Russian emigration
- Professor Alfred Meusel who travelled in France, Belgium, Holland, Denmark, Sweden and Czechoslovakia and was mainly concerned with German Refugee movements
- Mr A. A. Pallis who travelled in Greece, Yugoslavia, Turkey, Syria, Lebanon, Cyprus and was concerned with all refugees in those countries
- Mr H. W. H. Sams who made a detailed study of all refugees in France
- Mr Harold Fields who supplied reports on refugees in the United States of America
- Dr John Earl Baker and Dr Charles Metzler who studied the refugee issue in China
- Professor George C. Guins, Harbin University, who reported on the Russian refugees in Manchukuo
- Madam V. Karastoyanova who reported on the economic position of the Bulgar immigrant refugees in Bulgaria
- Dr Armando Zanetti of Geneva and Dr Giuseppe Nitti of Paris who reported on Italian refugees
- Dr José Domingos dos Santos who submitted a report on Portuguese refugees
- Dr A. Izjumov of Prague who examined the Archives of Russian emigration and supplied a report on early Russian refugee movements
- M. A. Timinskis who researched Russian refugees in Lithuania
- M. Albert François for Russian refugees in Belgium
- Mrs Mary Ormerod who studied refugees in Great Britain
- Dr Walter Berendsohn who reported on the literature of German emigration
- Dr A. Goldenweiser compiled the legal sections

報告書の出版後 9 ヶ月で、難民問題が大量に発生したことから補遺 *Refugees: a Review of the Situation since September 1938* が追加発行されました。ここではドイツ、スペイン問題の深刻な悪化、チェコスロバキアのズデーテン地域の併合、ドイツにおけるユダヤ人への新たな迫害と強制移住、イタリアにおける反ユダヤ政策の導入、ボヘミア、モラビア地域でのドイツ保護領の設置などが取り上げられました。Simpson は各問題について難民の現状、法的立場、そして実施された対策を解説しました。

### 出版物概要：

- *Refugees: Preliminary Report of a Survey* (pub: July 1938)
- *The Refugee Problem: Report of a Survey* (pub: January 1939)
- *Refugees: a Review of the Situation since September 1938* (supplement to the Report) (pub: August 1939)
- **Special Reports**
- Volume 1. *Special Reports: Russian Refugees (1)* by A. Stoupnitsky
- Volume 2. *Special Reports: Russian Refugees (2)* by A. Stoupnitsky, A. Izjumov, J. V. Hessen, P. Milioukov, S. Yacobson
- Volume 3. *Special Reports: German and Saar Refugees* by A. Meusel, W. Berendsohn and S. AdlerRudel
- Volume 4. *Special Reports: Italian and Portuguese Refugees* by G. Nitti, A. Zanetti and J. Domingos dos Santos
- Volume 5. *Special Reports: Refugees and the Law (1)* by N. Bentwich, J. Rubinstein, N. M. Rodzianko, A. François, A. Stoupnitsky, and A. A. Pallis
- Volume 6. *Special Reports: Reports on the Legal Position of Russian Refugees in Various Countries (Refugees and the Law 2)* by A. Goldenweiser
- Volume 7. *Special Reports: Countries of Refuge (1). France, Holland, Belgium, Latvia, Lithuania, Czechoslovakia, Bulgaria, Yugoslavia* by H. W. H. Sams, G. van Tijn, K. Mendelsohn, P. Reiwald, Latvian Minister, A. Timinskis, Czech Minister, V. Karastoyanova, A. A. Pallis, A. Stolonsky, A. Struve, D. Tomasic, E. Kovalevsky
- Volume 8. *Special Reports: Countries of Refuge (2). Greece, Turkey, Syria and the Lebanon, Cyrus, Egypt (particularly Armenian Refugees)* by A. A. Pallis
- Volume 9. *Special Reports: Countries of Refuge (3). United States and South America (Colombia)* by H. Fields, P. Routsy, L. Jacoleff, P. Haensel, I. Spector, and J. M. Sloos
- Volume 10. *Special Reports: Countries of Refuge (4): The Far East* by J. Earl Baker and C. Metzler, G. C. Guins, Miss M. Cable, Miss French and M. Pavlovsky
- Volume 11. *Special Reports: Statistics and Private Organizations* by K. Liepmann and E. Fuller